

ちどり

vol.39

SEPTEMBER 2018



特集1 診療科のご紹介 循環器科・血管外科

特集2 動脈硬化性疾患における専門スタッフの
関わりについて

Contents

- 地域医療連携室だより 総合支援センタートピックス
- 古賀市健康福祉まつりの開催について

- DMAT (災害派遣医療チーム) 活動報告

診療科のご紹介 循環器科・血管外科

循環器科と救急医療

循環器科医長 郷原 誠一郎

循環器科の対応する救急疾患には、急性冠症候群、急性心不全、肺塞栓症、重症不整脈などがあります。

その中でも急性冠症候群は急を要し、時に致命的になる疾患群で、私たち循環器科の総力を挙げて対応しているものです。

急性冠症候群とは、急性心筋梗塞、不安定狭心症（心筋梗塞になりかかった狭心症と思って下さい）、心臓突然死（主には心室細動。テレビドラマで『下がって!』とやって電気を流している、あれです）の3つを合わせた疾患群のことです。

急性冠症候群では基本的に緊急のカテーテル検査と治療を必要とします。このため循環器科では土日本院内に当直医として、平日はオンコール体制をとって、24時間365日急性冠症候群患者さんの対応をしています。

当科では例年250例程度のカテーテル治療を行っていて、そのうち約50例が急性冠症候群に対する緊急例です（だいたい一週間に一回程度緊急の患者さんが来られています）。緊急検査治療の際は、循環器科医師3名、看護師2名、放射線技師1名、臨床工学技士1名からなるチームで検査・治療を行いますので、看護部、放射線科、臨床工学技士などの全面協力の元、成り立っています（各方面に感謝しています!）。

夜中の呼び出しは心身ともにくたびれることもありますが、最重症の患者さんが元気になって退院される姿を見ると、疲れも吹き飛びこの上ないやりがいを感じています。

最後に当科のスタッフの紹介をします。

● 医長 小池：

東医療センター在籍20年を超える当科の責任者です。情熱と裸眼視力がすごいです。いかにも『ラグビー部出身!』な方です。

● 中司：

冠動脈のみならず下肢動脈の治療や血管外科と協力しての腹部大動脈ステントグラフト内挿術も行っています。静かな闘志を感じます。

● 仲村：

冠動脈のみならず当科の不整脈治療（カテーテルアブレーション）も担っています。少々の困難は『なんくるないさー』で乗り切れる男です。

● 細谷：

ACLSのインストラクターですので胸骨圧迫は男顔負けです。当院で臨床研修医からスタッフになった『たたき上げ』です。朝から晩まで（夜中も?）よく働きます。

● 木佐貫：

福岡赤十字病院と九州大学病院で循環器救急医療を叩き込まれ、当科へ合流しました。テニス部主将で笑顔と体力は誰にも負けません。

● 出石：

福岡徳洲会病院と熊本大学九州大学で循環器救急医療を叩き込まれ、当科へ合流しました。温厚そうな見た目と、軽快なフットワーク及びしゃべりのギャップがあります。

● 郷原：

縁あって当院へ赴任し7年目。最近老眼が進行中ですが、気合で何とかしています。

以上7名で日夜診療を行っています。これからも当院循環器科をよろしくお願いいたします。

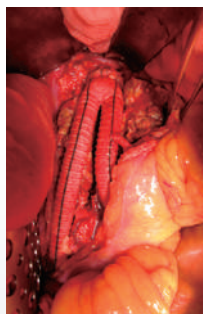


血管外科では胸部と頭頸部を除いた全身の動脈疾患、下肢静脈瘤に対する診療を行っております。また、高齢で併存疾患をお持ちの方に対しても他科との連携を密に図り、患者さんにとって最善の治療を行えるよう努めています。

1 腹部大動脈瘤

腹部大動脈瘤は腹部大動脈が拡張し、放置すると破裂して致死的大出血をきたす疾患です。かつては開腹・人工血管移植術が必要でしたが、開腹を行わない血管内治療（ステントグラフト内挿術）も積極的に行っています。

開腹・Y グラフト



ステントグラフト

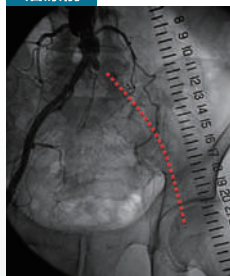


2 閉塞性動脈硬化症

閉塞性動脈硬化症は血流障害により、歩行困難（間欠性跛行）、下肢痛、潰瘍・壊疽をきたす疾患です。症状に応じて、個々の症例に最適な治療方針（薬物治療、血管内治療、バイパス術のいずれが最適か）を決定しています。

腸骨動脈に対するカテーテル治療

治療前



治療後



比較的症状の軽度の患者さんでは薬物治療を開始しますが、十分な症状の改善が得られない場合には血行再建術を行います。血行再建術にはカテーテルを用い

た血管内治療とバイパス手術があります。血管内治療は近年急速に進歩しており、様々な領域に施行可能となっていますが、カテーテル治療が困難な場合や再閉塞例ではバイパス手術を行います。

大腿動脈に対するカテーテル治療

治療前



治療後



近年、糖尿病や血液透析患者の増加により難治性潰瘍・壊疽を伴う重症虚血肢例が急増しています。従来は血行再建不能と判断され、下肢切断に至るものも少なくありませんでしたが、積極的に足部（脛骨動脈、足背動脈、足底動脈）までのバイパスを行うことにより、可能な限り大切断（大腿や下腿切断）を回避するように努めています。

両下肢に対する大腿—足部バイパス術



赤い矢印：自家静脈を用いたバイパス

3 下肢静脈瘤

下肢静脈瘤は下肢の皮下静脈が拡張・蛇行し、下肢のむくみ、だるさなどをきたす疾患です。症状や患者さんの希望に応じて、レーザー治療を行っています。

下肢静脈瘤レーザー焼灼術



動脈硬化性疾患における 専門スタッフの関わりについて

日本人の死因第1位はがんですが、第2位の心疾患と第4位の脳血管疾患をあわせると、動脈硬化性疾患による死亡率はがんと同じくらいの割合となっています。これら心疾患や脳血管疾患は動脈硬化が主な原因であり、命を取り留めた場合も後遺症が残ることが多く、現在の医療に求められる『健康寿命の延伸』の為に動脈硬化疾患の予防は重要です。

動脈硬化性疾患については、2017年「動脈硬化性疾患ガイドライン」2018年「脂質異常症診療ガイドライン」が改訂され、新たなエビデンスに基づいた診療が行なわれています。

当院では、循環器内科医師や血管外科医師など専門医師の治療の一環として、様々な専門スタッフが動脈硬化性疾患に関わっています。

1 看護師の役割

心筋梗塞や心不全患者は、緊急入院されて来られることが多く、急性期から回復期に至るまでの入院期間は約2週間程度です。

心血管疾患患者、慢性心不全の急性期を脱した患者さんの多くが、不安や抑うつに陥ることが知られています。看護師は、患者さんと接する時間が最も長く、疾患を含めた全体像を把握できる立場にあり、患者さんの不安をキャッチし、気軽に相談できるような雰囲気心がけています。必要な情報は、心臓リハビリテーションプログラムを実施している医師・看護師・理学療法士・作業療法士・栄養士・検査技師等の医療チームで共有し、患者さんが社会復帰できるように支援しています。

患者さんの不安は退院後も持続しており、身体的、心理的サポートの継続が必要であり、看護師からの情報提供など、かかりつけ医との連携が重要と考えています。

2 放射線科の取り組み

放射線科の取り組みとして、循環器内科・血管外科に対して、主にX線撮影検査、CT検査、RI検査、

MRI検査、アンギオ（血管造影）、Cアームイメージングが挙げられます。

特にCT検査では各科とも造影剤を用いて、冠動脈や大動脈、下肢血管の狭窄や閉塞している血管を一目でわかるように3D画像の作成を行っています。また、RI検査では心筋薬剤負荷シンチによる心筋虚血評価を行います。

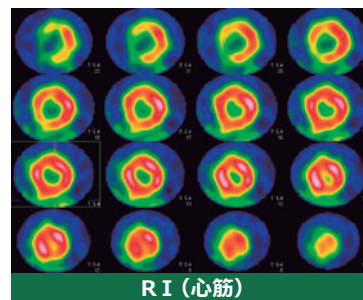
アンギオでは医師、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師が一丸となりカテーテルや造影剤を使用して急性心筋梗塞、下肢閉塞性動脈硬化症の患者さんに対して検査・治療を日々行っています。



アンギオ（心カテ）



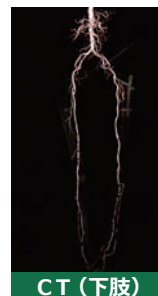
CT（冠動脈）



RI（心筋）



アンギオ（下肢）



CT（下肢）



Cアーム（大動脈）

3 検査科の支援について

当院検査科では、循環器内科・血管外科診療に対する支援を検体検査室、生理検査室にて行っております。

検体検査室では、トロポニンT定量・H-FABP・BNPをはじめ、血液検査・凝固検査・生化学検査など、循環器や血管疾患に関連する検査を幅広く行っています。また、循環器・血管疾患は緊急性が高いため、迅速かつ正確なデータを臨床に提供するように心掛けています。

生理検査室では、標準12誘導心電図・運動負荷心電図・24時間心電図（ホルター心電図）・ABI（足関節上腕血圧比）検査・SPP（皮膚灌注圧）検査・超音波検査（心エコー、腹部エコー、頸部血管エコー、腎動脈エコー、下肢静脈エコー、下肢動脈エコー）を施行しています。

一つの疾患において様々な関連検査が存在します。一刻も早い病態把握の支援ができる検査室を目指しています。

4 薬剤部の関わり

当院では薬薬連携として、院外処方箋に腎機能や肝機能、INR等の検査値を載せ、院外保険薬局での患者さんの服薬指導に役立てて頂けるようにしております。また、心リハでは、薬剤の飲み方や管理の仕方を講義し、困っていること、気になることを講義中にきいて対応しており、内服のコンプライアンス向上に努めております。

ビタミンK拮抗薬投与中の患者さんの出血傾向を抑制するケイセントラや、抗血栓薬プラザキサの中和薬ブリズバインドなどの薬剤も在庫しており、出血が予想される緊急を要する手術・処置の施行時に対応できるようにしています。

5 リハビリテーション科の関わり

リハビリテーション科では、入院ならびに外来で心疾患・動脈疾患に対する心・大血管リハビリテーションを実施しています。適切な負荷による運動療法は、運動耐容能増加・ADL/QOL改善・死亡率減少などの効果が報告されております。また、近年では高齢化に伴い、心疾患・動脈疾患に加え四肢の運動機能障害を有する患者さんが増加しつつあります。

急性冠症候群や血管外科術後の患者さんには治療開始早期より離床や運動機能評価を行い自宅復帰・職場復帰を目指します。明らかな運動機能障害のない場合

は、集団リハビリプログラムとして有酸素運動とレジスタンストレーニングを中心とした運動療法の実践、自主練習指導および二次予防のための各種教育を行っています。また、低心機能や運動機能障害を有する患者さんはPT・OTが個別リハで運動機能改善やADL練習を行い、廃用予防・介助量軽減および再増悪の予防に取り組んでいます。

効果的な運動療法が継続できるよう、定期的にCPX（心肺運動負荷試験）を行い、運動耐容能評価と適切な運動負荷量を検討しています。

6 栄養管理室の関わり

動脈硬化性疾患予防のためには、まずは生活改善を行ってから薬物療法の適応を検討すべきとされています。動脈疾患予防ガイドラインでは具体的な生活改善項目としては下記の事が挙げられています。

- 禁煙し、受動喫煙を回避する
- 過食と身体活動不足に注意し、適正な体重を維持する
- 肉の脂身、動物脂、鶏卵、果糖を含む加工食品の大量摂取を控える
- 魚、緑黄色野菜を含めた野菜、海藻、大豆製品、未精製穀類の摂取量を増やす
- 糖質含有量の少ない果物を適度に摂取する
- アルコールの過剰摂取を控える
- 中等度以上の有酸素運動を、毎日合計30分以上を目標に実施する

管理栄養士は動脈硬化性疾患の予防や再発予防のために、患者さんおひとりおひとりの生活状況や食事状況の問診を行い、実際の食生活と医師指示量との比較を行い、患者さんに分かりやすい具体的な改善案を提案し、生活習慣の是正を目指しています。個人指導だけでなく、再発防止のため心臓リハビリテーションでの栄養指導を行っています。

7 動脈硬化性疾患におけるチームアプローチの効果

このように当院では、動脈硬化性疾患に対し様々な専門スタッフが介入した医療を展開し、かかりつけ医へバトンタッチしています。かかりつけ医の皆様におかれましては、通院中の患者さんの専門的な診断や治療が必要な場合は御紹介いただければ幸いです。

地域医療連携室だより

総合支援センター トピックス

Topics

北部カンファレンス

糟屋医師会と共催の北部カンファレンスは年3回、診療内容を中心にしたトピックスや新任医師のご紹介を兼ねた研修会を開催させて頂き、159回を数えます。主には地域の医師、看護師のみなさまの参加を頂いています。今後はさらにみなさまの興味関心の高い内容の研修会を開催していきたいと思ひます。

5月8日(火)に第158回を開催しました。
次のようなプログラムで開催しています。
次回は2月頃の予定です。

演題1 「フリースタイルリブレプロが切り開く、
新時代の糖尿病診療」

糖尿病内科 野原 栄

演題2 「乳がんの手術と術後治療について」

乳腺外科 石田 真弓

演題3 「脳梗塞予防のための抗凝固療法
～現状と課題～」

脳神経内科 黒田 淳哉

緩和ケア研修会

がん診療に携わる医師に対する 緩和ケア研修会

今年度からe-ラーニングも開始され、1日の研修となりました。第8回研修会は6月30日に開催致しました。日常から離れて、グループワークやロールプレイングなど参加のみなさんは熱心に取り組まれました。がん対策基本計画も第三期となり、多くの方が研修を受講されています。次年度も開催予定です。多職種の参加ができます。ぜひご参加下さい。



当院は地域医療支援病院として地域の医療従事者のみなさまに役立つ研修会の開催を心がけています。今回は、その中から「北部カンファレンス」「臨床腫瘍カンファレンス」「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」をご紹介します。

臨床腫瘍カンファレンス

地域がん診療連携拠点病院として、年2回ご案内しています。外部講師をお招きして、がんに関連した内容の研修会を行っています。

第38回は、7月10日(火)に臨床腫瘍カンファレンスでは、社会保険労務士の吉田明文先生を講師にお迎えし「就労支援」についての講演を行いました。「こういう講演を聴きたい」というご意見お待ちしています。



今年も7月から
リハビリテーション科の
公開講座を行っています。
どなたでも参加
できます。



平成30年度リハビリテーション公開講座

元気UP シリーズ①	元気UP シリーズ②
講師:言語聴覚士 開催日:7月19日(木) 11:00~12:00 「健口UPで 囃Joy Life」 ～口腔機能向上編～	講師:作業療法士 開催日:9月20日(木) 11:00~12:00 「脳力UPで 脳活き活き」 ～認知機能向上編～

地域で支え合う元気な仲間を増やそう!

元気UP シリーズ③	元気UP シリーズ④	元気UP シリーズ⑤
特別講演 脳神経内科部長 黒田 淳哉 先生 開催日:10月16日(火) 11:00~12:00 「知識UPで 丈夫な脳」 ~生活習慣向上編~	講師:理学療法士 開催日:11月15日(木) 11:00~12:00 「筋力UPで 上手に貯筋」 ～筋量・筋力向上編～	講師:理学療法士 開催日:12月20日(木) 11:00~12:00 「耐力UPで みんなで元気!」 ～運動機能向上編～

会場:福岡東医療センター 外来管理診療棟2階 リハビリテーション室
お問い合わせ:国立病院機構 福岡東医療センター リハビリテーション科
電話:092-943-2331 (担当:言語聴覚士 佐藤 文保)

参加
無料

講座の中で茶話会を予定しております! みんなで楽しく過ごしましょう!

各種研修会は、地域の医療従事者の方は、どなたでも参加が可能です。研修についてのお問い合わせは
地域医療連携室まで(電話 092-943-2331)

健康福祉まっりの開催について

平成 30 年 10 月 21 日（日）の 9 時 30 分から古賀市保健福祉総合センター（サンコスモ古賀）にて第 32 回古賀市健康福祉まっりが開催されます。例年、当院は共催企業として古賀市健康福祉まっりに参加し、地域の住民の方の健康増進・介護予防の啓蒙をおこなっています。

今年の企画は右記の通りとなっております。また、その他複数の企業、福祉施設、消防等が多くの出し物等も行う予定で有り、古賀市からはポイントラリーによるくじびき大会など多種多様なイベントが行われる予定です。古賀市健康福祉まっりは、大人から子供まで多くの方が楽しめるイベントになりますので、もしご都合がございましたら是非参加の程宜しくお願いいたします。



福岡東医療センターの出し物

企画一覧

- 講演
「知っておきたい成人病
～がん、脳卒中、心筋梗塞～(仮)」
- 健康測定
- 骨密度・肺年齢・体力測定
- 介護予防
- 運動指導 ロコモの紹介
- 食教育：フレイル予防と朝ベジの紹介
「簡単(缶たん)炊き込みご飯で介護予防！」

DMAT(災害派遣医療チーム)活動報告 Report

呼吸器外科医長
前川 信一

先の西日本豪雨では、平成 30 年 7 月 6 日に大雨特別警報が福岡県や中国地方にも発表され、特に広島県や岡山県などは甚大な被害をこうむりました。被害状況はテレビでご覧になった方も多くいらっしゃると思います。

福岡東医療センターの DMAT は、被害が大きかった広島県に 7 月 8 日（日）の午後から 7 月 10 日（火）まで医療支援に行っておりましました。チームは前川のお、高島将児看護師（ICU）、松田いつみ看護師（4 西）と、業務調整員として富永圭一臨床工学士、山口華奈理学療法士、岸川不三弘運転士の 6 名で活動を行いました。

福岡県も被災していましたので、出発当日は高速道路の通行止めの箇所

があり迂回路を通過して向かいました。午後 6 時頃出発しましたが、迂回路はどこも渋滞していますので、広島市内には日付が変わるころに到着しました。7 月 9 日（月）早朝より対策本部となった県立広島病院に参集し、被災状況の報告と活動の指示が出されました。広島県南部の被害が甚大であるということで、その地域を回り状況把握を行うことが任務で、坂町という地域に向かいました。

幸い負傷者の方々は病院で既に手当を受けておられていましたので救助活動の必要性は低く、避難所をめぐる現状を把握することが主な活動でした。移動中の河川敷には、至る所に倒木が積み重なり川の原形をとどめておらず、また川の中には自動車ガスク

ラップになりそのままの状態が残っている凄惨な現場で、改めて被害の甚大さを実感いたしました。

翌 7 月 10 日（火）は、近隣の災害拠点病院が冠水し病院避難の可能性があるため待機しておりましたが、幸い病院避難は回避されましたので、正午に本部が解散となり我々も帰路につきました。帰路も出発時と同様、通行止めの区間があり渋滞の中を帰りましたので夕刻になりました。

災害というのは、いつ起こるか分かりません。他人事ではなく、日ごろから備えておく必要があるということ。今回の活動を通して痛感いたしました。当院も災害拠点病院です。今後には備え、しっかりと活動を継続してまいりたいと存じます。



Disaster Medical Assistance Team

編集後記

今年の夏も、集中豪雨や多数の台風が発生する等天候に悩まされた。当院の DMAT 隊は 7 月上旬の集中豪雨の被災地に入り、いち早く復旧活動に参加した。ご苦労様でした。今だ酷暑が続く中、熱中症や夏血栓症といった脱水に伴う患者さんが急増している様です。皆様、水分や塩分補給に心がけ乗り切りましょう。今回は、循環器科や血管外科といった循環に係わる疾患を扱う診療科の特集を組んでみた。病院での治療だけでなく、生活習慣を含めたトータルケアを多職種に係わるチーム医療を紹介する。参考となれば幸いです。他には、福岡東医療センター DMAT 隊の活動、総合支援センタートピックスや健康福祉祭りの案内など盛りだくさんの内容を皆様にお届けするために猛暑の中、ちどり編集のメンバーは貴重な草稿を作成してくれた。この号が皆さんのお手元に届く頃も残暑厳しいかもしれないが、少し涼しい夜長になっていることを期待したい。季節の変わり目です。お体にご自愛ください。（大賀 記）

外来担当医一覧 平成 30 年 9 月 1 日現在 ※最新の担当医はホームページをご覧ください。http://www.fe-med.jp/

受付
時間

- 1) 午前 8 時 30 分から午前 11 時 00 分まで。 ※予約の方は、指定された時間においで下さい。
 2) 土・日・祝祭日・年末年始は休診です。当院は救急告示病院です。救急の方は、診療時間外でも受付いたします。

診療科			月	火	水	木	金
内科新患（別紙参照）			当番医	当番医	当番医	当番医	当番医
脳神経内科	新患	田中 恵理	立花 正輝	陣内 重郎	田中 恵理	黒田 淳哉	
	再来(脳血管内科)	陣内 重郎	中根 博	黒田 淳哉	村谷 陽平	立花 正輝	
	再来(神経内科)	-	田中 恵理	田中 恵理	九大医師	-	
糖尿病	新患	野原 栄	-	野口 裕貴	担当医	堤 礼子	
	再来	堤礼子・野口裕貴	-	野原栄・堤礼子	野口 裕貴	野原 栄	
血液内科	新患	-	担当医	担当医	-	担当医	
	再来	嶋川 卓史	嶋川 卓史	黒岩 三佳	-	黒岩 三佳	
消化器科 (消化管・肝臓)	肝	高尾 信一郎	多田 靖哉	青柳 知美	多田靖哉・高尾信一郎	-	
	膵胆	松尾 享	大越 恵一郎	松尾 享	-	大越 恵一郎	
	消化管	藤井 宏行	坂井 慈実	細川 泰三	田中 宗浩	芥川 宗樹	
腎臓内科	新患	松枝 修明	片渕 律子	片渕 律子	竹内 実芳	黒川 真澄	
	再来	片渕 律子	松枝 修明	竹内 実芳	片渕律子・黒川真澄	松枝 修明	
循環器科	第一診察室	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	
	第二診察室	郷原 誠一郎	細谷 まろか	仲村 尚崇	木佐貫 恵	中司 元	
呼吸器科	新患	中野 貴子	田尾 義昭	高田 昇平	吉見 通洋	山下 崇史	
	再来	田尾 義昭	高田 昇平	吉見 通洋	高田 昇平	田尾 義昭	
		山下 崇史	山下 崇史	中野 貴子	大田 恵一	吉見 通洋	
			大田 恵一		中西 喬之	中野 貴子	
呼吸器外科		岡林 寛	澤田 貴裕	前川信一・阿部創世	徳石 恵太	岡林 寛	
外科	新患	伊藤 修平	(手術日)	辻田 英司	(手術日)	大賀丈史・吉賀亮輔	
	再来	大賀丈史・伊藤修平		辻田 英司		辻田・伊藤・吉賀	
	乳腺	-		石田 真弓		石田 真弓	
血管外科		-	隈 宗晴	隈 宗晴	(手術日)	-	
整形外科	新患	中家 一寿	福元 真一	(手術日)	吉田裕俊・松原弘和	(手術日)	
		兵藤裕貴・岡本重敏	田所 耕平		原田 哲誠		
	再来	福元 真一	吉田 裕俊		中家 一寿		
		松原 弘和	岡本 重敏		田所 耕平		
			原田 哲誠		兵藤 裕貴		
脳神経外科	新患	大城 真也	千住 緒美	(手術日)	大城 真也	保田 宗紀	
	再来	保田 宗紀	大城真也・保田宗紀		保田 宗紀	大城 真也	
皮膚科 (予約・紹介状をお持ちの方のみ)		古賀 哲也	古賀 哲也	古賀 哲也	古賀 哲也	古賀 哲也	
		安河内 由美	安河内 由美	安河内 由美	安河内 由美	安河内 由美	
小児科	午前	一般	中原 和恵	菅 尚浩	中原 和恵	菅 尚浩	中原 和恵
		専門(予約)	馬場 理絵子		松倉 幹	水野勇司・河原隆浩	馬場 理絵子
	午後	専門(予約)	松倉 幹	水野 勇司	中原和恵・松倉幹	馬場 理絵子	中原 和恵
			中原 和恵	菅 尚浩	循環器(村岡 衛)		馬場理絵子・松倉幹
			アレルギー(第2・4)	腎臓(堤 康)		小児神経(米元 耕輔)	
放射線科	新患	月・水・金のみ受付(電話予約のみ)					
	再来		白川 友子				
歯科口腔外科		福元俊輔・沖永耕平	福元俊輔・沖永耕平	福元俊輔・沖永耕平	福元俊輔・沖永耕平	(再来のみ)	
婦人科		内田 聡子	内田 聡子	内田 聡子	(手術日)	内田 聡子	
		河村 英彦	河村 英彦	河村 英彦		河村 英彦	

* 小児科の入院依頼や受診相談は、病院代表 TEL092-943-2331 から
 小児科紹介担当医師(月・管/火・馬場/水・(午前)馬場/午後)管/木・松倉/金・
 第1・3・5管、第2・4馬場)へ、夜間休日は小児科当直へご連絡ください。

●物忘れ外来《特殊外来》

完全予約制(内科外来 内247)【担当医 中根・陣内】『金曜日 13:30～14:30』
 予約受付は平日月～金 13時～15時の間で TEL 予約

●緩和ケア外来

完全予約制(担当看護師 内8184)【担当医】『火曜日・木曜日 午前中』

独立行政法人国立病院機構
福岡東医療センター

〒811-3195 福岡県古賀市千鳥1丁目1-1
 HP <http://www.fe-med.jp/>
 TEL 092-943-2331
 0120-212-454 (地域医療連携室)
 FAX 0120-087-437